

わが

日本一幸せを感じられる 自治体を目指して

厳しい現状

現在、珠洲市の人口は約1万7000人。昭和29年に本市が発足した当時の約3万8000人から半分以下に減ってしまった。能登半島の先端に位置し、県庁所在地である金沢市まで2時間ほど掛かるという地理的なハンディや高等教育機関もないことから、若者は地元の高校を卒業すると故郷を離れ、そのまま都会で就職し帰って来ない。

高齢化率が40%に達し、生まれてくる子どもの数も年間1000人を割っている。

当然のことながら、人口が減ると経済が縮小し、さらに働く場所が減る。働く場所がないから若者は帰ってこない。悪循環に陥っている。

珠洲市の強みである「食」を生かす

いかにして、人口減少、少子高齢化が進む本市を「活性化」させるか。企業誘致も容易ではない中、本市の景気経済を活性化させることは、並大抵のことではない。

本市の強みは何といっても「食」である。海、山の豊富な食材と食文化。約3分の1の世帯が農業を営んでおり、蛸島漁港は県内でも有数の水揚げを誇っている。こうしたことから、本市の強みである「食」を中心に、交流人口の拡大と農林水産業の振興を結びつけて活性化を図ることで、経済全体の浮揚につなげようと取り組んでいる。

能登半島のまさに先端に位置する狼煙地区では、以前から在来種である大浜大豆を活用した豆腐や

納豆の商品化に向けて取り組まれていたが、行政で施設を整備するとともに地域の方々が出資して株式会社を設立し、平成21年度に道の駅としてオープンした。平成22年度は約5万人が訪れ、販売額は豆腐や野菜の直売などで4000万円を超えている。

また、平成22年度には、廃線になった駅舎を再開発し、バスターミナルと観光案内に加え、物産販売の拠点として道の駅「すずなり」をオープンしたところ、市内の野菜や果物を使ったジャムやお菓子など、新たな商品が続々と誕生するようになった。さらに、トビオオの焼き干しを製造販売する婦人会や地元の食材で郷土料理を提供するNPOによる食堂が現れ、民泊や民家

レストランを始める人も増えるなど、コミュニティビジネスやソーシャルビジネスの起業が活発になってきている。

「世界農業遺産」を生かし 地域をブランド化

また、本市では、「自然と共生する珠洲市」として地域そのものをブランド化しようと取り組んできた。平成18年度に市内の空き校舎を活用し、金沢大学と連携して開



田の神様をもてなす「あえのこと」

設した「里山里海自然学校」と、そこで展開している「里山マイスター養成講座」によって里山里海の保全に取り組みNPOが発足するとともに、新たに就農する若者も現れるなど、さまざまな動きが生まれ

てきた。これまでのバイオマスメタン発酵処理施設や民間による30基もの風力発電に加え、平成24年度中には北陸電力によるメガソーラー発電も始まる。

こうした中、平成23年6月、本市を含む「能登の里山里海」が、佐渡とともにわが国で初めてとなる国連の「世界農業遺産」に認定された。里山里海が美しく豊かであることはもちろん、「揚げ浜式製塩」や「あえのこと」「祭り」など、



揚げ浜式製塩の様子

里山里海とともに生きてきた生業や生活様式、伝統文化といったさまざまな要素が高く評価されたのである。

今後、生物多様性や里山里海の維持・保全に努めるとともに、この「世界農業遺産」を活用し、「自然と共生する珠洲市」としてより一層のブランド化を図っていきたいと考えている。「里山里海」や「食」「伝統文化」など、あらゆる資源を生かすとともに、「人」そのものを生かし、農林水産物の付加価値の向上や体験型観光、ヘルスツーリズムなど交流人口の拡大につなげ、さらなる活性化を進めていきたい。

安心して暮らせる活力ある 珠洲市を築く

自治体として目指すべきは、安心して暮らせる地域にすること、活力ある豊かな地域にすることに尽きると思う。活性化を図る一方で、人口減少、少子高齢化が進む現状にあっても、安心して暮らせる地域でなくてはならない。

本市では、平成23年の東日本大震災を踏まえ、津波の一時避難場所や避難路の見直しと整備に取り組むとともに、地域ごとの新たな

津波ハザードマップを作成した。さらに、この冬から避難路の除雪についても除雪計画に盛り込んだ。今後、一人暮らしの高齢者世帯を中心に、災害時の援護のみならず、除雪など地域で支え合う「しくみ」づくりを進めていきたいと考えている。

ことながら、何よりも「人」が良い。あとは、考え方である。市民が思いを共有し、一体感を持って取り組めば、安心して暮らせる活力ある珠洲市を実現できると考えている。そして、この安心して暮らせる活力ある本市の実現に向けた取り組みを通して、日本一幸せを感じられる自治体にすることができると確信している。

プロフィール

- ◆ 面積 247・20km²
- ◆ 人口 1万6980人
- ◆ 世帯数 6487世帯

〔将来都市像〕安心して暮らせる活力ある珠洲市

〔まちの特徴〕能登半島最先端に位置し、美しい里山里海と豊かな食に恵まれ、伝統的な風習や祭りが今もなお暮らしに息づいているまち

〔特産品〕珪藻土製品、珠洲焼、揚げ浜式製塩、大納言小豆、地酒、黄金岩ガキ、マツタケ、原木椎茸、大浜大豆、



珠洲市長 泉谷満寿裕



系びす南瓜

〔観光〕見附島、祿剛崎灯台、道の駅すず塩田村、りふれっしゅ村鉢ヶ崎、珠洲市立珠洲焼資料館、道の駅「すずなり」、須々神社、平時忠とその一族の墓

〔イベント〕トリアススロン珠洲大会、キリコ祭り、飯田燈籠山祭り、宝立七夕キリコ祭り、砂取節まつり、大谷川鯉のぼりフェスティバル、奥能登珠洲まるかじり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「自分たちのまちは自分たちで創る」 参加・熟議型市政を求めて

「笑顔あふれる東村山」を目指して

東村山市は、東京都の北西部にあり、トトロのふるさと「八国山」や狭山緑地などの自然景観と国宝建造物「正福寺千体地藏堂」などの歴史文化遺産を有するとともに、市内に9つの鉄道の駅があり、都心へのアクセスが1時間という交通の利便性に恵まれた住宅都市です。

昭和39年の市制施行以来成長を続け、平成20年には15万人都市の仲間入りを果たしました。

東日本大震災後、わが国の社会経済はかつてなく閉塞的で、不透明な状況にあると言われていますが、本市は、自然と歴史遺産を守りながら、都市としての機能や安全性を高め、子どもから高齢者まで市民の誰もが安心して生き生きと暮らせる

「人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山」を目指して市政に取り組んでいます。

グローバルゼーションと少子高齢化、人口減少の進展により、地域社会の活力が失われつつある一方で、地方分権・地域主権改革が進みつつある今日、市民が安心して、希望を持って暮らせる元氣な地域社会を築いていくためには、行政が力量を高めることはもちろんですが、市民の多様な力を引き出し、結果していくことが必要です。

そのため本市では「自分たちのまちは自分たちで創り、治める」という住民自治意識に基づく参加・熟議型市政によるまちづくりを進めています。

市民参加による総合計画

本市では、まちづくりのさまざまな場面に於いて、市民の参加を促

し、行政とのパートナーシップを強化するとともに、市民一人一人が主役として地域の課題解決や価値の向上に取り組む協働による自治を進めています。

平成23年度に策定した「東村山市第4次総合計画」は平成23年度から10年間を計画期間とし、目指すべき市の将来都市像を示すとともに、実現に向けた分野別の目標と基本姿勢、具体的な施策を明らかにしています。

本市ではこの総合計画の策定そのものを市民との協働で行うことにしました。

「みんなで創る、みんなの東村山」を合言葉に、諮問に応じて答申いただく総合計画審議会とは別に、今後のまちづくりの在り方を検討する市民ワークショップ「東村山の未来を考える市民会議」を設置して、公募

に応じた16歳から81歳までのさまざまな年代・職業の市民72名が「みどり・環境・ごみ分野」「道路・交通・基盤整備分野」など9つの分野についてグループに分かれて検討を行うことになりました。

さらに策定作業の進展に合わせて市内各地で「市民フォーラム」を開催し、市民からの意見を計画に反映させるようにしました。

結果としてワークショップは平成21年中に10回実施し、市民の目線から市全体・分野別の課題、今後のまちづくりの方向性を提言していただきました。

また、市民フォーラムは、市内22カ所の会場で開催し、多くの意見をいただくことができました。

このように第4次総合計画は、さまざまな形で多くの市民の参画を得て策定した計画になっており、将来の本市のまちづくりは、これまで以上に市民と行政が共に手を取り合っ

東村山市版株主総会

市民参加によるまちづくりの一つの形として、平成23年11月23日に「東村山市版株主総会」を開催しました。

東村山市版株主総会は、前年度の決算や施策の成果など市政全般について、市の経営者である市長から直接市民に報告し、また、市民からは、市政に対するご意見・ご提案をいただくとともに、市政の成果に対する評価を5段階評価でいただくというものです。

いただいた評価は、市長の業績に対する一つの評価ととらえ、平均点が5点満点で3点未満であれば、市長の来年度の期末手当の支給額を減額する仕組みです。

これは、市民に「自らが東村山市のオーナーである」というオーナー



東村山市版株主総会の様子

シップ意識を高めていただくこと、また、市民からの意見を生かし、市民本位の市政運営、自治体経営の質的向上を図りたいという考えから実施したものです。当日は、無作為抽出による18歳以上の市民

2000名の中から参加を申し込みされた52名の皆さまに株主としてご参加いただきました。

結果としては、3,078点で、及第点をいただきましたが、いただいたご意見は、今後の市政運営の発展に生かしていきたいと考えています。

(仮称)自治基本条例の策定

本市においては、おそらく全国でも例のない『東村山市の(仮称)自治基本条例』をみんなで考えるための手続に関する条例』を平成22年3月に制定し、これに基づき本市にとって自治基本条例が本場に必要かどうか、審議会を設置して審議するところから自治基本条例策定の取り組みを開始しました。

その審議プロセスで広く市民からのご意見をいただくため、12月に本市で初の市民討議会を開催しました。無作為抽出で選ばれた16歳から99歳までの91名の市民の皆さまが、「東村山の自治を考える」というテーマで真剣に討議を繰り返しました。

平成23年3月には「東村山市においては自治基本条例を策定する必要がある」との審議会答申を受け、現在、条例の骨子案を検討する核として、無作為抽出の市民120



東村山市長 渡部 尚

プロフィール

- ◆ 面積 17.17 km²
- ◆ 人口 15万988人
- ◆ 世帯数 6万8373世帯

〔将来都市像〕人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山
〔まちの特徴〕トトロのふるさと「八国山」などの身近な自然と多摩地域で唯一の国宝建造物「正福寺千体地藏堂」などの歴史文化遺産、そして9つの駅を擁し、交通の利便性に恵まれたまち



〔特産品〕多摩湖梨、多摩湖ぶどう、サツマイモ、武蔵野うどん、焼だんご、地ソース、地酒
〔観光〕北山公園菖蒲苑、正福寺千体地藏堂、下宅部遺跡、徳蔵寺板碑保存館、国立ハンセン病資料館
〔イベント〕東村山菖蒲まつり、地蔵まつり、市民産業まつり、緑の祭典、北山わんぱく夏まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「人がきらめき 共に育む 元気なまち・和泉」 地域資源を生かすまちづくり

はじめに

和泉市は、大阪府南部の泉州地域の北部に位置し、南北に細長い地形で、北部は奈良時代に和泉の国の国府が置かれるなど、泉州地域の政治・経済・文化の中心の役割を担ってきました。中部は新住宅市街地開発事業による「トリヴェール和泉」など新しいまちが生まれ、新旧のコミュニティの連携が息づく丘陵地です。南部は和泉山脈に連なる山地など緑豊かな環境を有しており、このように地域によりいろいろな市の顔があることは、本市の強みの一つです。

ラス細工、人造真珠製造などが地域産業として栄え、現在は関西国際空港などの交通インフラを生かして整備された産業団地「テクノステージ和泉」などへ企業進出が進むとともに、住宅都市的な性格が強まっています。活力と定住魅力のある複合機能都市を目指したまちづくりにより、人口は現在も増加傾向にあり、市制施行55周年を迎えた今は、人口約18万7000人を超える都市へと成長しています。

行財政改革

一方で、本市の財政状況は、扶助費の増加など財政の硬直化が進んでおり、経常収支比率が平成22年度決算で96・1%と非常に厳しい状況にあります。このため、「集中改革プラン」の取り組みも実施し、一定

の成果を挙げてきたところですが、さらにはその後継計画として、平成22年に「和泉再生プラン」を策定しました。



イメージキャラクター コダイくん・ロマンちゃん

このプランは、学識経験者、企業経営者、公募市民に参画いただいた懇話会の意見を参考としながら、足腰の強い行財政基盤の確立と、職員の意識改革を柱として策定したもので、5年間で60億円を超える財政効果や、信頼され、創造できる人材の育成、また観光や地場産業などをはじめとした地域の活性化を目標としています。現在はプランの進行管理の初年

度に当たり、毎月その進行状況を各部課が取りまとめるなど、所期の目標達成に向けて鋭意取り組んでいるところです。

地域資源の発掘

本市には、弥生時代の集落遺跡の池上曾根遺跡、国宝・重文を含む1万1000点もの収蔵数を有する和泉市久保惣記念美術館など、市民が誇りに思う数々の地域資源があります。さらなる資源の発掘により、地域活性化を図る必要があると考えています。

このための取り組みとして、商工会議所との共同事業として和泉ブランド「いずみ印」を立ち上げ、地域の優れた素材・技術を生かした商品を生産し、販路の拡大や周知に活用することを始めました。認定された商品の中には、市内の菓子職人、農産物生産者、公募市民による「洋菓子・和菓子ものづくり職人会議」により商品開発された、絶品の「OSAKA和泉スイー

ツ」5品も含まれています。ぜひたくさんの方々にご賞味いただきたいと思っています。

里山の再生を目指して

環境保全に関する市の取り組みとして、里山の再生を図り、地球温暖化対策や地域の防災能力の向上、緑豊かな都市環境の構築を目的とした「いずみいのちの森事業」を実施しています。

この事業では、市民や企業と協働しながら植樹活動を行っており、そのコンセプトである、地球に優しく、安全・安心で、安らぎ・潤いのあるまちづくりには多数の企業にも賛同をいただき、協賛金や植樹の協力をいただいたり、植樹



いずみいのちの森植樹祭の様子

イベントには地域の方々にスコップを持って参加いただくなど、公民協働の姿を実現しています。都市部においても、身近な所で緑の持つ癒やしの効果を感じていただけるように取り組んでいきたいと思っています。

市民活動の支援

公民協働によるまちづくりは、総合計画や自治基本条例でも中心的な考え方となっており、持続的に発展可能な社会のために不可欠な取り組みだと思えます。さまざまな主体に、まちづくり活動に参画いただき、住民による自治を推進する。このために行政には、今まで以上に支援やコーディネート役割が求められます。

本市では、市民相互の協働によるまちづくりを促進するため、市民一人一人の選択届出数に応じて、市民活動団体への助成額を決定する制度「和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業(愛称「ちよいず」)」を実施しています。この事業の助成対象となる市民活動団体は、地域のイベントや環境保全への取り組み、また連合会による「だんじり祭り」継承など、市民に身近な活動を行っ

プロフィール

- ◆ 面積 84・98 km²
- ◆ 人口 18万7519人
- ◆ 世帯数 7万3293世帯

〔将来都市像〕人がきらめき 共に育む 元気なまち・和泉

〔まちの特徴〕清く豊かな水に恵まれ、弥生時代から開け遺跡などの文化財が数多く残されている歴史のまち

〔特産品〕綿スフ織物、人造真珠、ガラ



和泉市長 辻 宏康



ス細工、花き、みかん、なす、みずなす、たけのこ、いちじく
〔観光〕池上曾根遺跡、和泉市久保惣記念美術館、金剛生駒紀泉国定公園道の駅いずみ山愛の里、熊野街道
〔イベント〕だんじり・秋祭り、和泉市商工まつり、和泉市民文化祭、信太山クロスカントリー大会、和泉弥生口マン・ツーデーウォーク

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

良質な地下水に恵まれた小林市 郷土の宝を次世代へ引き継ぐために

大自然にはぐくまれる
小林市

小林市は宮崎県の西部に位置し、熊本県と鹿児島県に隣接しています。平成18年3月に旧須木村と、平成22年3月に旧野尻町と合併し、西諸地域の中核都市として、その役割を担っています。自然豊かな本市は、北部から南西部にかけて市を取り囲むように九州山地と霧島山系が連なっています。平成23年1月には、霧島山の新燃岳が52年



小林市の恵みの源、霧島連山

ぶりに爆発的噴火を起こし、本市にも多大な影響がありました。現在もその活動は活発ですが、本市はそうした困難を克服して火山と共生し、山々の多くの恵みの下で発展してきた自然と共生する美しいまちです。全長2kmにわたって咲き誇るまきばの桜や出の山のホルタルの乱舞、生駒高原の100万本のコスモスなど、四季折々の美しい景色が楽しめます。それら豊かな自然を背景として本市は農業を基幹産業として発展してきました。中でも畜産は農業生産のおよそ7割を占め、県や市、JA、生産者など、関係者が一体となって改良と生産に取り組み、特に和牛では多大な成果を挙げています。5年に一度開催される和牛オリエンピックと呼ばれる「全国和牛能力共進会」では、前回宮崎県が優勝しま

した。本市は、その宮崎県内でも有数の和牛生産地であり、共進会を制するなどレベルの高さを証明しています。今年も和牛オリエンピックの開催年です。本市の畜産技術が宮崎県の連覇に貢献してくれるものと期待しています。

豊富で良質な地下水が はぐくむ魅力

本市は、名水百選に選ばれた「出の山湧水」があるなど、県内でも数少ない良質な地下水に恵まれた自治体です。これは、先に紹介した九州山地や霧島山系など豊かな自然の恵みによるもので、これまでに70カ所を超える湧水が確認されています。

これらの豊富な地下水の恵みを私たち小林市民は多く享受しています。例えば、水道水のうち地下

は、小林市の主役は小林市民一人であり、その知恵を結集して素晴らしいまちづくりを行っていくことを表しています。現在、市民と行政が一体となった協働によるまちづくりをさらに推進し、取り組んでいるところです。今回の条例制定を契機に、「水が郷土の宝である」という市民の認識が高まり、この素晴らしい水環境が将来へと受け継がれるよう地域が一体

となった取り組みが広がるとともに、これを生かして地域の活性化につながればと考えております。本市は、九州自動車道や鉄道などの交通網が整備され、宮崎・鹿児島両空港へとつながるなど、アクセスしやすい環境にあります。豊かな自然と良質な水、それらにはぐくまれたおいしい食材が堪能できる名水のまち小林市にぜひお越しください。

プロフィール

- ◆ 面積 563・09 km²
- ◆ 人口 4万7921人
- ◆ 世帯数 1万9692世帯

〔将来都市像〕霧島の麓に人・自然・歴史・自然が息吹き 元氣あふれる交流都市

〔まちの特徴〕霧島連山の豊かな恵みを受けて発展する宮崎県西部の中核都市
〔市町村合併〕平成18年3月20日、須木村と対等合併、平成22年3月23日、野尻町を編入合併

〔特産品〕西諸牛、メロン、栗、梨、ブドウ、マンゴー、鯉料理、チーズ饅頭、焼酎、出の山産キャビア

〔観光〕生駒高原、出の山公園、コスモス牧場、すきむらんど、のじりこびあ、陰陽石
〔イベント〕まきばの桜まつり、小林市すき納涼花火大会、こばやし名水まつり、のじり湖祭、すきむらほぜまつり、こばやし秋まつり、こばやし冬まつり、野尻町イルミネーション



おいしそうに水道水を飲む小学生

宮崎県初の「水資源保全条例」を制定
このように水の恩恵を受ける本市では、平成23年10月1日、「水資

源保全条例」を制定しました。この条例は新たに井戸を掘り、地下水を採取する際、市の許可を義務付けるもので、地下水の採取を規制するのは宮崎県内で初めての条例です。また、水を郷土の宝と位置付け、市民や事業所が行政と協働して守っていくとうたっています。

人々の知恵と融和で築く まちづくり

本市ではNPOなど市民による水資源を守る活動が展開されています。広葉樹は、山の保水力を高める働きがあるため、その保全や植樹活動が展開され、水についての授業が小中学校で行われています。これらは市民と行政の協働によるものです。

本市の基本理念は「人々の知恵と融和で築くまちづくり」です。これ



小林市長 肥後正弘



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。